

横浜国立大学所有の「計測コンテナ」が日本船舶海洋工学会のふね遺産に認定されましたので、ご連絡いたします。

日本船舶海洋工学会では、歴史的価値のある「ふね」関連遺産を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝える事業を行っています。

先日の学会の審査会にて、横浜国大にある「実船計測用コンテナ」がふね遺産に認定されました。添付のように、この計測用コンテナは、実海域での計測を行える、当時としては画期的なものであり歴史的・工学的な意義が大きいものとのことです。今回、本学前教授（弘陵造船航空会 前会長）の平山次清先生より応募したところ、ふね遺産に認定された次第です。

「第1回ふね遺産認定式」が明治記念館にて平成29年7月18日に行われ、横浜国大所有の「計測コンテナ」がふね遺産9件の中の1件に認定されました。詳しくは下記をご覧ください。

<https://www.jasnaoe.or.jp/enlightenment/funeisan/01.html>



「計測コンテナ」認定式の模様

(左から、高山特別教員・平川准教授・宮川元講師・川村教授)